

令和3年度 第75回関東高等学校女子バスケットボール大会

令和3年6月13日(日) Aブロック 2回戦 ALSOKぐんまアリーナ Dコート 第1試合

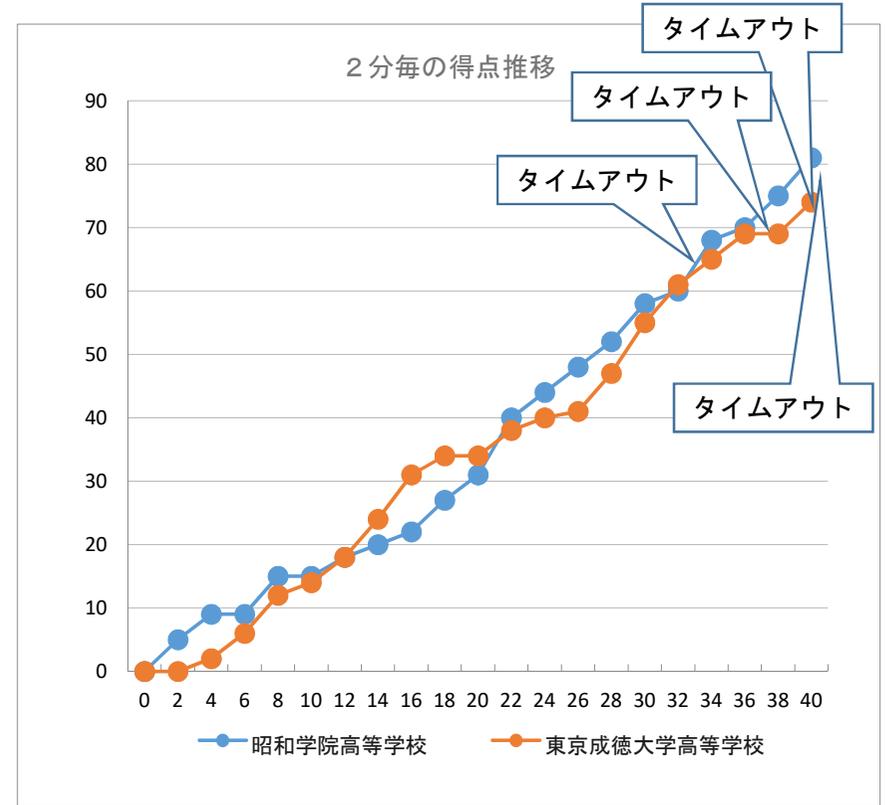
チームA	81	15 1st 14	74	チームB
昭和学院高等学校 (千葉県)		16 2nd 20		東京成徳大学高等学校 (東京都)
		27 3rd 21		
		23 4th 19		
		OT		

Aチーム： 昭和学院高等学校

	S	No.	氏名	PTS	3P FG		2P FG		FT		F	REBOUNDS		
					M	A	M	A	M	A		OR	DR	TOT
1		4	西 フアツマ 七南	9	1	1	2	2	2	2	1	3	2	5
2	*	5	石橋 花穂	15	3	3	3	3	0	0	0	1	2	3
3		6	エスコ 梨々杏	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	*	7	田平 真弥	13	1	1	4	4	2	4	4	3	6	9
5	*	8	花島 百香	14	0	0	4	4	6	5	3	3	8	11
6	*	9	田嶋 優希奈	26	1	1	8	8	7	5	3	1	1	2
7		10	桃井 瑠奈											
8		11	小島 夢生											
9	*	12	アチャラ オグチ クランシー	4	0	0	2	2	0	0	4	0	5	5
10		13	清水 さくら											
11		14	小松崎 萌愛											
12		15	殖粟 佳穂											
13		16	山本 羽南											
14		17	米須 莉奈											
15		18	春川 麗											
HC/TEAM			鈴木 親光											
合計				81	6	6	23	23	17	16	15	11	24	35

Bチーム： 東京成徳大学高等学校

	S	No.	氏名	PTS	3P FG		2P FG		FT		F	REBOUNDS		
					M	A	M	A	M	A		OR	DR	TOT
1	*	4	佐坂 光咲	13	0	0	5	5	3	3	5	1	1	2
2	*	5	古谷 早紀	27	1	1	11	11	2	2	3	3	9	12
3		6	高山 茉夕	2	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0
4	*	7	原 美月	7	1	0	1	1	2	2	3	5	2	7
5	*	8	山宮 好葉	10	0	0	4	4	2	2	5	0	4	4
6		9	尾崎 理咲											
7		10	高實子 わこ	13	0	0	6	6	1	1	1	2	4	6
8	*	11	天野 希咲	2	0	0	1	1	0	0	3	0	1	1
9		12	山内 彩加											
10		13	古澤 英琉											
11		14	菊地 彩里											
12		15	野崎 楓											
13		16	奥山 奈津											
14		17	鈴木 若菜											
15		18	高松 花葉											
HC/TEAM			小林 康裕											
合計				74	2	1	28	28	12	12	21	11	21	32



戦評

記事者：石井 貴子(群馬県高体連)

1Q：両チームマンツーマンディフェンスでスタート。昭和は高さのある#12をハイポストに置き、起点としてシュートチャンスを作ってリードする。シュートに固さの見られた成徳だったが、ディフェンスで流れを掴み、#5のリング下、#8のドライブで得点し、ピックプレイが決まると流れが変わり1点差に追いつき、15-14で終了。

2Q：オールコートでディフェンスを続ける成徳に、1対1でしかチャンスの作れない昭和は#7の3Pで得点するが、流れに乗り切れず連続得点にはならない。スティールから得点する成徳も、ハーフコートオフェンスではチャンスを作れず苦しいシュートが続く。ディフェンスで粘る成徳が速攻で攻め、31-33、成徳3点リードで後半へ。

3Q：昭和は#12をローポストに置き、成徳のカバーの遅れをつきドライブから得点。ピックプレイで得点する成徳に対し、ダブルチームで攻撃の起点を潰す。#5の3Pも決まり逆転からリードへ。それでもオールコートでプレッシャーをかけた成徳は、#4のドライブで得点し3点差まで詰めて最終Qへ。

4Q：昭和#5、#9が積極的に攻めて得点。一方、成徳は#8がドリブルから速攻で得点。成徳はセットプレイを仕掛けるが崩せず、1点差のゲーム展開が続く。残り3分、速いバス回しから昭和が得点すると、ここで成徳はタイムアウト。タイムアウト後、昭和はオールコートプレスを仕掛けるが、成徳はバスで運びシュートチャンスを作るものの、シュートは外れ逆に昭和にリードされたままボールを回され試合終了。終始ディフェンスを徹底し食らいついた成徳だったが、勝負所でシュートを決め、時間をコントロールした昭和が81-74で勝利し、準決勝に駒を進めた。

主審	第1副審	第2副審
渡邊 整(指名)	内野 翔太(群馬県)	藤林 比登美(埼玉県)